

(一)

敦賀西町油屋市太夫方へ辰十月参り泊り介抱二相成
其礼状并二七匁之やうかん壺箱添正月五日府中種屋の

其達し呉候様申渡し置ク、状ちん五分添

十二日 朝御講与助・自分参り、当年理右衛門寺番

先年大宗旨印形取二府中御目付瀧様出張嘉兵衛方ニ而御勤印形取り

森田寺代僧まかなひ自分致し候其方江銀壺匁与兵衛・与助・政右衛門・利太夫・佐太夫

ズ五人方の銀壺匁受取申候

四日 府中行、留主中ニ糸崎助左衛門の年玉 酒札式升・黒のり壺袋

ズび・串柿壺束・かに三ばひ

ズ

「」の酒式升・式匁之菓子箱一ツ、返礼遣し申候

十三日 針原酒屋の千左衛門ニ酒式升酒のかすニ而持遣し申候

太郎丸村新十郎昼後年礼二見へ泊り

十四日 □□年礼二見へ新十郎卜兩人昼飯たべ昼後兩人帰り

十五日 □□小兵衛来り泊り、土産黒さと式匁斗

十六日 □崎滞逗留

「」同道ニ而理右衛門・多造連行、供喜兵衛、嶋崎へ行喜兵衛帰村

「」泊り

十八日 昼前御駕猪助方へ行、菓子料として五匁持参

十九日 朝飯後嶋崎出立、鍋勘へ立寄同所ニ而昼飯たべ昼後

帰村

廿日 朝宗印仕二庄屋平兵衛方へ喜兵衛を印形ニ指遣申候

廿一日 嘉兵衛病氣見廻ニ行

廿三日 久左衛門病氣見廻ニ行式匁之菓子箱壺ツ持行

嘉兵衛方へも見ニ行キ

廿四日 朝太郎丸へ行新十郎ニ泊り、土産式匁之手ぬくひ一筋・扇子式本

子共へ札壺匁・菓子五分

廿五日 朝帰村、嶋崎江多三来ル、ミやげ柿壺束

(二)

廿六日 朝嶋崎帰り、多三は止り、大工惣助・高佐五右衛門年礼ニ来ル

平兵衛府中行立寄ル、但宗旨帳持行卜申、外ニ彦右衛門銀

一件窺兼帯用

上の村藤右衛門年礼二見へミやげ大ばん壺状

安沢村弥右衛門同断、昼後見へ帰り、さと式拾三匁斗持来ル

酒札壺升

廿七日 昼後多三福井嶋崎へ行、多三へ鍋勘へたはこ壺袋但壺升

五合斗入遣し申候

廿八日 朝御講政右衛門方母参り

廿九日 かた炭壺貫匁斗久左衛門へとらせる、使喜兵衛

「」御坊所江寄進木けや木年内切たをし有之ルを

川出し村一統御坊所の御頼山室・高屋のも人足
罷出候

二月三 矢地村法敬□泊り法話相伴二三右衛門よび
「」 森造送り喜兵衛土産小右衛門へ式匆此方〇三匆上ケ

昼御代様御講和助方へ自分参り懸り銀式拾式匆
講中理右衛門・和助・彦右衛門・儀平・吉兵衛・与兵衛・初而出勘右衛門
ズ七人

八日 森田寺江年頭参り并奥方出産ニ付旁
一三匆年玉・一式匆奥方江・一五匆安産見舞

十一日 朝久左衛門病死、昼時板垣猪太夫見へ泊り
万寿札壹匆・黒さと半斤斗・菓子壹匆

十二日 久左衛門葬式上分皆よはれ晚式人よばれ仏供米白米三升遣ス
板垣泊り

十三日 朝板垣帰り、次郎兵衛法事母よばれ行
十五日 豆木打喜兵衛ト下女共式人ニ而此豆

(三)

十六日 朝儀右衛門志自分・母兩人よはれ朝久左衛門七日追夜母行提灯もち
をミわ久左衛門へ遣ス

十七日 福井行嶋崎ニ泊り
十八日 昼後嶋崎出立、晚方帰り

十九日 四十谷村の御坊御用材御買揚ニ相成廿一軒弁
当日同所迄早朝の御手伝廻章到来

廿一日 三国油次〇使来り釜壺口持来ル、相返ス、昨年取来申候
久山急須壹ツ使へ返し水次葉灌代五拾匆右同人江

「」 手紙の中へ入渡之、鉄瓶かけ火はち代はやり不申候

「」 昼御遠忌志嘉兵衛方へ家内皆よはれ香典五匆致ス
□嘉兵衛へ骨折よひによはれ自分参人行

朝丸岡小原帰り、多三嶋崎の来り
昼积浄信五十回忌仏事、御院主同日朝御出
迎駕の積りにて三人差遣し候所天氣能候故

「」 行ニ而御出、村方一さん御相伴よひ
廿八日 夕方骨折よび

三月朔日 昼彦右衛門御遠忌志老人よばれ母参り
二日 朝御遠忌和助方多造名代ニ行

三日 久兵衛普請見舞長田酒札壹升遣ス、使きわ
四日 朝多三嶋崎へ行

善六江酒札壹升、去年下女心配頼ニ付礼遣ス
五日 府中講左り甚ニ而会合出席、会后嶋崎へ立寄

夕方帰村、昼御遠忌与助方母代参

(四)

五日 宗旨人御改ニ付御目録町折之丞組四人
郡手代大谷学右衛門并組式人出張嘉平宿

六日 二日市村印形取り

七日 吉野村・下村・柿原村三ヶ村印形取り

但吉野村五郎右衛門寄り土産式匁持参

同村南部庄兵衛息子取寄り壹匁五分万寿札壹枚土産

八日 朝、御目付御出立、朝嘉平方迄御機嫌窺ニ罷出

昼前和兵衛ひねりニ来り、昼飯迄ひねり昼めしたべ帰り

「」 嶋崎江老母病死悔忌中見舞旁香料式匁

草だゝ老重・たにさく和歌一枚被持喜兵衛行

但喜兵衛は手間替ニ而喜兵衛手間ニ而行

昼後江上村とよ蔵・清太夫銀子一件ニ来り

□□苗□きつぽこゑ上ケ

太郎丸新左衛門七年志もち老重持来ル

拾匁かけらうそく三丁御ひき五分遣ス

十八日 福井志比口浄善寺御本山御遠忌御達書持参来り

泊り法話森田正善寺藤島同行共寄セ奉加頼ミ、但先方〇

送り但シ浄善寺方〇催ニ而よび呉候様申来り候故請招

十九日 昼後中角迄送り、人足喜兵衛行、但御布施不致参銭斗り上ケ

廿日 夕方俄ニ福井慶福寺見へ泊り法話、土産松風菓子

壹匁五分斗

廿一日 福井へ引取、但供ハ向ヒ〇連レ来り、供は三衛門方ニ泊り

此方〇三衛門方へよひ使遣し候共不来

慶福寺江菓子料三匁、供江壹匁

同日 昼後針原酒屋へ行酒出し酒吞夫〇暮合時

八杉へ行酒出し晩方帰り、内方へ長板かまぼこ

(五)

壹枚呉申候ついで迄送り呉申候

廿二日 東屋敷麻まき平次郎手伝

廿三日 昼後大郎丸新十郎見へ土産酒札壹升

夜門左衛門よひ善兵衛銀一件咄候

廿四日 朝善兵衛来り、銀六拾匁持来ル不納四月十日迄

まち呉候様申し四月十日ニは急度勘定申ト約定

昼前麻島廿五分麻まき、平次郎手伝、浜麻種・牛旁

まき

晩御講

針原村嘉左衛門〇鬼面火はち借用に来り、かし遣申候

□太郎丸村庄兵衛来り、ミやけ万寿札式匁

持来り

母吉崎参詣、同行藤左衛門、並家内ニ者参銭拾匁渡候

□□様江十二銅上ケ、太郎丸中屋敷ばゝ見へ嘉兵衛方へ

□六七分斗之大判紙壹状土産ニ持来ル

同 「」衛門三月切銀持参、孟宗竹子壺本到来
廿八日 昼後庭上池ほり文三半人・手伝喜兵衛半人かかり
母吉崎の帰村

□ 朝上の村米蔵来り、朝苗代もミ種入喜兵衛
同日昼後出福、嶋崎江泊り

四月朔日 米善へ行、同所ニ而昼飯致し夕方多造同道帰村
四月 およき・おはる越知参り、番方帰村、おしか・おかな・久右衛門同道
参銭兩人江拾匁渡し候
七日 越知・大谷寺開帳参り、亀次郎同道、夕方帰村
六日市渡り上り場迄多三迎ニ来り、七匁五分入用

(六)

十一日 太郎丸村惣助大工天菅生江長押見ニ行
但、昼寝時ニ行、七ツ前ニ帰り
十二日 朝出福、おかなつむき嶋買米伊行、山神主へも行、昼後帰村
十三日 おかな銭別として袖しま壺反、代銀百匁、米猪ニ而
求メ遣し申候、おはる御引壺匁
十四日 昼後田嶋并柿木畠わたまき
夜おかな樽披露、酒ニよばれ
十五日 昼おかな三国江縁付ニ付家内皆よばれ
且自分ト下女ハよばず
昼後喜兵衛福井買物ニ行
□のおかな初而八百屋長左衛門江引移り自分行、三国
「」着、夜四ツ時八百長江行、夜明ケ名村へ引取り
□村名村江菓子袋壺ツ持行、油次□へも立寄
壺匁五分菓子壺ツ持参
今城駅扇屋多助立寄、昼飯たべ晩方
福井迄帰り

廿二日 昼時祭礼ニ嶋崎盛平并二家内・子供守・下男
千田家内見へ泊り 嶋崎の土産 手風呂敷一・万寿壺匁・かんさし壺本ノ三品
千田の土産 絹襟一・万寿札二匁ノ二品、

廿三日 昼後、右客人帰り
廿五日 布施田村半右衛門ト申者、府中御代官小柳寿兵衛殿
差紙持来り、右村江来り呉様申参候
同人同道罷越候所、稲寄藤右衛門来居
拾貫匁拝借銀奥印致具候様申頼

(七)

返り証文取り、印形致遣し申候
七百五拾匁ツト利足月ハ朱加へ十三ヶ年ニ
返済致候様との趣法ニ承申候
布施田村次郎左衛門方へ参り申候
廿日 おかな嫁見よび昼嘉兵衛・おゆら・千代蔵・長十郎ノ五人

相伴ニ弥三衛門家内・五郎右衛門家内・嘉左衛門ばゝ三人よび
おこな土産ニ万寿札三十到来

□昼前馬ニ而田かき半人助八、昼前太郎村新十郎

昼後帰り、土産五分之さと箱一ツ

昼後の苗取かゝりおきニ

「 」「衛門・平次郎兩人ニ而田植、昼後藤左衛門・仙吉・平次郎・おます

「 」「田植、長田苗代残り、苗取おきニ

糸崎助左衛門の使来り鯛式枚・め壱わ・黒さと壱袋・干鯛一袋
持来り此方の銀拾匁・白さと箱壱ツ遣候

布施田村善右衛門酒二升持来り、先日拝借之証文

奥書御代官所の仕直し候様被仰付候ニ付無抛

何卒仕直し呉候様申来候儘仕直し遣し申候、別紙

写し有之候

十四日 早瀬□平父子同道昼前来り、昼寝起帰り

土産生か糖式匁到来

十七日 福井御留主居溝江主従三人府中郡手代大谷学右衛門同組

竹中惣左衛門ノ五人昼過拙宅へ着、江上川除見分

同日下川ばた急所御見分、自分同道、江上川除は此節

(八)

五日雨降つづき水増不見候ニ付同日者川除御見分ハなし

十八日 昼寝後瀬水引候ニ付御留守主溝江大谷学右衛門・竹中惣左衛門

舟ニ而御見分村役御案内自分ハ不行、夫の御留主居ハ

主従三人御帰り、大谷・竹中は泊り

十九日 朝食後大谷・竹中兩人帰り

廿日 五日雨降つづき出水ニ付遊善はさ損し麦流れ候ニ付

昼後喜兵衛并長次郎・林右衛門・九右衛門三人手伝致呉候而

致始末後の酒吞ニ来ル様使きわ遣候事

随応寺講当番之節、預り置申候講銀隨応寺坊主

致上京之旨ニ付入用ニ而集呉候様と頼来ル候由、和助申参

候ニ付両度四拾三匁預り、之ハ和助へ渡ス

但□拾七匁ト十六匁ト二度也

態と申遣候 一当月廿五日御札所御貸付銀御取立テ候間

左様可被想得御役所迄四ツ時限上納可致候

此配府五月廿三日廻り 一当月晦日御講銀御取立候間、四ツ時限り

朝庄屋へ返ス 御役所迄御上納可被成候

右両度定日御取立被遊候間村々無違

四ツ時迄御上納可被成候為其申遣申者也

五月十七日

男

稲藤

廿三日 三国八百屋長右衛門の嘉兵衛方へ聳入取持ニ行上分皆よばれ

廿四日 波寄村仙次郎弟杉次郎并三九郎名村次郎吉遊ニ見エ酒遣ス

同日 麦打人足男女四人次助・次兵衛・きわ・みの

麦五表ト京壹斗アリ此歩二百五拾歩斗り
家屋敷内二十歩斗 柿木五十歩斗り 藤林シ南之方五拾歩斗 田嶋二枚百歩
遊善儀右衛門島□□歩
東方五十歩

(九)

廿六日 □□□ん草取おきまやとひ

廿七日 朝喜兵衛を以上の村かべ屋江六月五日・六日頃迄
のばし呉候様申越候

草文小判三両預ケ 福田原町室屋平三郎江此方へ銀三百五拾匁借用来ル七月切
使藤左衛門倅仙吉

廿八日 府中江御講取立ニ付早天出立、村国村上江出泊り
土産六匁菓子袋壹ツ・壹匁之万寿持参

廿九日 朝村上同道出府御役所江直ニ行取立昼寝起頃相濟
種屋へ引取種屋ニ而村国ト兩人酒吞夫の八万辻子
家久楼へ兩人行終夜はなし酒吞種屋へ引取
泊り朝出立嶋崎江立寄ミやけ四匁ニ而玉子十求メ
五分煎餅持行晚方多三同道帰村

六拾匁、嘉兵衛自分兩人宿料壹ツツ、受取

廿八日付落 早瀬江立寄万寿札二匁持行花木先生手本二本
早瀬の取来ル

此高四十二石

六月二日 □銀三拾七匁七分三厘午年社倉割返候銀受取庄屋平兵衛の

□米二俵ト二斗七升八合六勺此代式百廿壹匁九分三厘壹俵八拾五匁立

五日 高木村寂定寺泊り法話菓子料二匁

参銭六匁有

六日 昼後高木嘉三右衛門方へ引越ス

七日 朝母板垣行、供利吉、土産万寿札三匁・小豆式升遣ス

参銭式拾匁母へ渡ス

昼時嶋崎法印見へ晚方多三同道ニ而帰福

法印土産園菓子壹匁多三嶋崎へ麦いりこ壹袋遣ス

八日 小右衛門出福之席を頼ミ山権頭江清書十六枚遣申候

夕方利兵衛板垣の帰り

(十)

十日 朝西長田村儀右衛門の早瀬講紙面到来

随応寺村空誓来り、帰命講銀三百匁藤左衛門へかし置候を

内百五拾匁理右衛門取かへ空誓へ渡し申候、但上京致候ト申候、和助

儀兵衛も来り右人へ渡度和申候

十三日 朝嘉助へ酒札壹升遣し申候、使きわ但先達而着貫

御代り

嶋崎ミヤけ万寿壹匁

十六日 朝祭礼ニ付嶋崎并多造同道ニ而見え泊り

- 十七日 昼後はり原酒屋吉村見へ夕飯たべ帰り
 多造嶋崎同道帰福
 十八日 森田下男若助ト申者麦・菜種集メニ来り、麦壺升上ケ
 なたねは不上ケ右男晩方泊り
 十九日 朝森田寺男婦り永代経米袋五本同人江相渡ス
 ねぶか壺東同人江渡し寺江上ケ
 十八日 昼前「」・喜兵衛下女式人ニ而瓦上ケ、并式百七十枚・役四十枚・のし式拾五枚
 十八日 丸灯燈四はり張替代八拾匁、長燈籠式はり張替代六拾五匁
 村中□
 割合多造分拾四匁相渡ス、先達而中勘ニ而拾五匁三右衛門□弟喜八・
 嘉太夫・万九郎三人江渡し置候処割合出来ニ而同日張面持参ニ而
 直右衛門・高楊右衛門倅嘉太夫・善吉倅万九郎・庄兵衛倅佐右衛門四人見□壺匁
 正銀返し受取り
 廿日 昼後母板垣の帰村先方の黒さと壺袋・赤飯壺重
 到来、此方の壺匁之生が糖遣候
 昼後六尺二九尺之油団壺枚多造持来ル、但嶋崎世話ニ而
 嶋や庄太郎の
 廿一日 朝多造嶋崎へ行、ユトン代銀七拾五匁書中へ入多造ニ渡し嶋崎迄達ス
 御坊還相寺御奉加一件二見へ森田正善寺同行申触レ
 奉加取集メ藤嶋方は武右衛門の申聞ル
 (十一)
 御坊御奉加へ五拾匁母の上ケ還相寺へ渡し
 右還相寺并供昼飯致し昼寝後引取ル
 廿三日 昼後早瀬らんせん講頼二見へ直ニ帰り
 廿六日 八百屋長左衛門子息嘉兵衛方へむこ入、土産として銀五匁嘉兵衛の
 到来受納、使おゆう
 四日 未年な種三本ト式斗八升式合五匁有り、喜兵衛はかり
 代銀壺本ニ付八拾五匁ツ、ニ而銀三百三匁式分五厘トナル、布施田村次助へ払ひ
 当村久右衛門も来り
 同日晩方喜兵衛河出し、夕飯後喜兵衛久右衛門方の銀取来ル
 晩善吉倅政吉そめん玉ニツ持来り、酒のませ返ス
 四日喜兵衛は休日
 朝喜兵衛逐電、四ツ時同人母おりよら知九兵衛を同人頼来り追かけの相談致ス
 福井絹屋次助・若者藤兵衛ト申者来り、頼ミ候ニ付草字文金小判
 五両売払申候、壺両ニ付百七拾匁ツ、銀八百五拾匁取り
 「」四ツ有之、是も払壺ツ三匁ツ、八石六拾式匁入り
 廿九日 「」奉加ニ来り、五匁源右衛門分佐太夫の受取御院主へ
 相渡し候、壺匁五分九右衛門分是も取次御院主へ差上げ
 同日嘉兵衛逐電
 晦日 新右衛門へ未進之事申聞候所九月節旬前迄待呉候様申候
 上京の帰り次第勘定致ト申候
 加州金沢材木町森尚之進ト申人此尚之進宿料式匁渡し、七月七日

来り、少々不快ニ付泊メ置可様申候ニ付

新右衛門方へ頼ミ泊メもらひ申候、蚊屋は此方へかし遣し申候

七月二日 昼後さわ江上へ病後來り

七月三日 昼前すすばき平次郎をやとひ昼後平次郎休ミ

四日 朝出福、嶋崎へ泊り朝飯後嶋崎出立、米善へ行候所易了

三国へ行、留主中米善ニ而昼飯たへ昼寝致し夫へ帰宅

六日 昼後糸崎坊主来り泊り

七日 庄屋平兵衛へ昼後行盆森仕懸候処俄ニ嘉兵衛急病ニ付

森延引

(十二)

覚

高百五拾石

一 式百三拾式匁四分

高家懸り共

一 四匁

六日市舟割合

〆式百三拾六匁四分

内九拾壹匁四分四厘 川除御出張

入用宿与内共

同七匁四分七厘 大宗旨ニ付御手継

寺賄料宿与内

差引而 百三拾三匁四分九厘

慥ニ受取申し候

庄屋 平兵衛

未七月十五日

加藤理右衛門殿

算用違致候段申来り

七月十七日銀四匁波市郎へ渡ス

(十三)

十日 昼後瓦つなきはりかね求ニ出福、夕方帰村

十一日 東屋敷内五十分斗麻かり、昼後三味河戸・草野廿五分麻かり、二枚共ならべ

昼前仕廻

此人足助八老人・おます老人・おすて老人・きわ老人・自分〆五人

晩七ツ時分相仕廻、わたのめかき・同草取り・瓦屋足場こわし色々致し

十二日 盆森残り平兵衛方ニ而三役立会仕廻

銀拾四匁七分 高十石かかり 拾壹匁九分 上家かかり

〆銀式百式拾匁五分 高百五十石分

十三日 朝嶋崎江多造盆礼ニ行、昼時帰り

十四日 嘉兵衛方江三匁之求肥壹袋・式匁五分万寿札右ニ品病氣見廻・盆礼

旁遣ス、母持参

十五日 嘉兵衛〆千代藏素読礼として藤鷲塚中村酒札

二升千代藏持来ル

- 十六日 そふめん二ツ善六方へ下女世話頼置候ニ付遣ス
太郎丸おゆうのそふめん壹ツ・菓子袋壹ツ被持被遣
此方の手ぬぐひ壹筋遣し申候、使江御引五分
昼後次郎兵衛遊ニ来り、酒被吞
十七日 昼後波市郎来り酒被吞、森田寺の廻状十八日
寄合之趣申し来ル
十八日 森田寺盆参り旁名代多蔵遣ス、御院主江式匆斗り
光林寺江覚信香貫式匆外ニ何もなし
十九日 丸岡武兵衛方へ昼後行、鷲塚北嶋へ立寄前年之薬札
差出し玄信留主、夫の丸岡小原へ行泊り
廿日 朝池内潜方へ行、昼時分迄咄し小原ニ而昼飯たべ昼後
喜兵衛迎ニ来り、夕方帰村、小原へ土産 万寿札五匆・菓子袋一ツ
黒小豆式升・牛蒡壹わ

(十四)

- 廿一日 およき糸崎行、土産銀七匆・そうめん二わ・松風二匆、送り喜平・きわ
子共さと・きよ行
廿四日 三野河戸大根まき
廿六日 仙松・喜八一件ニ付先達甚兵衛方の貰ひ申候酒札壹升次郎兵衛へ訳合申聞
事つげ甚兵衛方へ相返し候
廿六日 昼過八ツ時過御郡本多様御家内御不幸、廿二日出之配府稻寄
藤右衛門出之着
廿七日 朝三右衛門同道ニ而出府、種屋へ着、直ニ御郡江弔ニ行
銀五匆香料差出候得共不請、山本喜三右衛門取次ニ而
御郡様ニは御目ニ不掛、当夏不快引ニ而暑中不動
罷在候ニ付此日暑中見廻ニ勤、平野様・高木様・
滝様・牧野様・町村様へ五軒行、其の除は遅クなり候
ニ付此時不参、町村ニ而夕方酒ニ而馳走ニ合候
廿八日 早天三右衛門同道府中出立、夕方帰村、此時種屋ニ而酒不吞
廿五日付落 家由（井江葎力）茶五斤式百式拾匆、斤ニ而壹匆八分ツ、へ九匆外ニ壹匆
だちん多左衛門江、余り勘弁悪敷来年より八所ニ而□買、
八月朔日 家由茶四斤式百五拾匆、斤ニ而壹匆七分ツ、へ六匆八分藤右衛門の
二日 昼後およき帰り
喜平江手ぬくい一筋・たはこ一丸とらせる
此代式匆 此代式匆五分
三日 石田円立寺法話ニ見へ候所八ツ座、壹座過候処へ石田の飛
脚到来ニ而子供死去致候段申来、夫の直ニ引取り
同人帰寺
五日 朝御内様御講随応寺軸元見候、吉平宿自分参り

(十五)

かかり銀拾五匁、講中理右衛門・和助・吉平・儀平・与兵衛・与助
 儀平

六日 堅瓜二ツ割二十七枚

はり原酒屋へなら積(漬)仕込ニ遣ス、使きわ

七日 森田寺おやし奉加一件ニ来ル

はり原酒屋のかたうり奈良積(漬)権助持来ル

御郡本多様御子息不幸ニ付三右衛門出府、自分不快

達し香料五匁三右衛門へ頼ミ差出候所不請返り

同日おゆう并ニ子供式人泊リニ来リ

八日 昼後針原八杉江祭礼ニ行、夕方帰村、土産金平糖

沓袋持参、代三匁式分五厘

九日 朝おゆう帰宅、昼後小麻はきにかゝる

十日 朝納芋正ミ三百九拾匁、庄や平兵衛へ遣ス、使きわ、三右衛門のかりて遣ス

但シ高拾石ニ芋自式拾六匁ツ、なり、御高当年百五拾石

十日 昼寝あげ

十一日 太郎丸新十郎方へ昼後祭礼ニ行、夕方帰村、酒札壺升持参、

十二日 昼時太郎丸おゆう病氣稼に申来リ、母・おゆう同道ニ而行、

見廻三匁五分之求肥沓袋遣ス、麻はき仕廻

十三日 十四日昼迄中庄村おきの芋引ニ来リ、式人半此方へ

手間代四匁渡ス

十四日 昼前芋引仕廻

十五日 昼後安沢弥右衛門へ祭礼ニ行、夕方帰村、土産酒札壺升持参

同日 醬油立

十六日 晩方太郎丸おゆう病氣見廻ニ喜平を遣ス、素めん一ツ

遣ス、昼後ねぶか種まき

十七日 西蔵の東蔵江衣服夜着類入替、人足助八・喜兵衛

石塚重右衛門へ祭礼ニ行、双六絵一・江戸赤本二持参、喜兵衛迎ニ来ル

(十六)

十八日 昼後源太郎同道山室栄助へ祭礼ニ行、銀五匁持参、夕方帰村

十九日 今橋臼すり、もち米沓表うる米九表ノ十表

此人足藤右衛門・平次郎・栄助ノ男三人、下女式人きわ・ミの、喜兵衛不快

廿日 三国名村忠左衛門へ弔ニ行、香料五匁持参、八百屋長左衛門へ

立寄、土産松風菓子式匁持参、八百長ニ而昼飯たへ夫の

滝谷寺へ行上人江面会、折手本一状かり来ル、菓子箱

一持参、代五匁、出村らうそく屋ニ而求メ夕方帰村

帰りかけ高柳へ出酒屋ニ而桑酒壺升来ル

廿一日 門左衛門葬式兩人よばれ亀次郎壺人名代ニ遣ス

□二日 祭礼来人太郎丸・新太郎・女きた・新十郎・山室栄助

酒札壺升持来ル 酒札壺升持□ 酒札壺升・万寿札壺升持来ル

はり原酒屋吉村ノ五人、酒肴 大鯛はま焼 いか・かヒ・ねぎてつぼあへ さんはい漬

浅草まきずし すごんほ すご 切身肴すひ物ねき人

御膳付小鯛煮染 牛蒡・堅瓜・いも

焼豆腐・こんにゃ

針原八杉使遣し候へ共不参、安沢弥右衛門ハ不快申来り赤飯壹重・やきさは一ツ・小鯛一ツ
使きわを以遣し石塚十太夫も一家共ニ不幸有之趣申来り不参、依之赤飯
一重・さは一ツ・小鯛壹・巻すし壹本使勘介を以遣ス、
夜久右衛門来り、かけ物見せ酒のませ

勝山大鳳泊り法話

大鳳山室へ行、母亀次郎連レ彼岸参り、夕方帰村

廿七日 御講当番夕方勤メ夜〆コロリ送り、懸ケ銀五分平兵衛子息へ渡候

多蔵若者割合出し

同日朝〆母初而不快、山室栄助見廻

送り迎二度 同断奉公日 同断 送り斗り

廿八日 藤鷲塚北嶋請詔、駕人足長次郎 喜兵衛 先方〆壱人 藤左衛門

昼後〆嶋崎并板垣迄行、夕方遅ニ板垣猪太夫・利吉同道帰村

嶋崎〆妻木へ頼込

但シ妻木「」老若手ノ方 嘉兵衛〆手伝長吉

廿九日 朝妻木迄人足四人差向ケ迎送り人足長次郎・勘介 久左衛門・ 嘉兵衛

〆四人

嶋崎法印見廻二見江

(十七)

九月初日 朝嶋崎法印板垣猪太夫同道帰宅

妻木親ノ方敬齊江上多兵衛迄御出ニ付人足弥三右衛門・長次郎・喜兵衛〆三人多兵衛迄

迎ニ行キ帰り、送り利吉・勘介・長次郎・奉公日喜兵衛〆四人

六日 森田寺〆米集メニ下男見へ玄米式升使江渡候

七日 太郎丸・新左衛門ば〆見廻りニ見江酒札壱升新左衛門〆到来

中屋敷〆うどん式匆・大なしニツ中屋敷〆到来

ニツ屋ば〆帰りニ壱匆之さと箱ニツ新左衛門ト中屋敷トニ軒江

壱匆ツ、遣し申候

「」唐詩選一草訣百韻ニ広沢千字文ニなへ勘へ返済

「」式升添使喜兵衛同人妻木へ菓取

九兵衛〆長次郎夜長遊致し手慰致候親之意見を

不用候ニ付取しらへ呉候様申来候俣同日晩長次郎呼寄

吟味致、候長次郎無申訳段申之誤り入候ニ付

十日 長次郎〆侘状一札取爪印致させ同日夜九兵衛へ渡候

十一日 昼後下女ミの養父入ニ行

十二日 昼後藤左衛門・平次郎・勘介・栄助・長次郎・弥助六人大工高屋新吉・同金助江

まかして小地頭〆勇太夫家作見廻酒札壱升被持遣ス

さわ藤鷲塚市右衛門酒札

「」人足清兵衛・勘介・小右衛門廿日内人足清兵衛・小右衛門・利吉

十九日 検見宿小柳十兵衛殿・藤田文内殿・秋月吉兵衛殿手代佐々木暮右衛門

橋本松兵衛

催役壱人下部四人主従〆拾人泊り東水門〆御出西川ばた迄廿日朝

送り、小柳〆菓子袋一ツもらひ、下女きわ不快、おきミ雑仕

廿一日 母おはる森田寺報恩講参り

廿二日 福井行嶋崎へ泊り

廿三日 妻木へ母薬礼ニ行、夜嶋崎家内同道デク芝居見ニ行同所ニ泊り

廿四日 朝嶋崎出立、米善へ立寄易了同道帰村、易了土産松茸壺籠

廿五日 易了泊り、昼後千歩寺行、院主留守、夕方帰村、奥方香貢

式匆、松たけ五本持参、同日易了泊り

廿六日 母正善寺報恩講参り

(十八)

廿五日 芭蕉壺本伝右衛門のもらひ庭へ植

多三・富蔵兩人ニ而

廿六日 もちかし壺本儀右衛門の買取植人足利吉

此代銀拾五匁

同日 梅壺本嘉兵衛の貰ひ植申候、但鉢前へ植申候

人足利吉

同 南天壺株嘉左衛門のもらひ植申候

此礼

(十九)

廿七日 昼後母帰り、易了泊り

一位壺本植替、其座江ひらき植ル

廿八日 雨ふり易了一日休ミ

廿九日 易了庵昼後帰福、同日針原八杉の焼鯛壺枚帳面被持使来り

手水はち・鬼面火はちかし呉候様申来り使江龍のちよう水鉢

鬼面火はち右二品使安右衛門へ相渡し申候

晦日 十月四日府講差紙持使夕飯後来り泊呉候様申

ニ付庄屋平兵衛へ差函致し遣し申候

「」しだれ梅壺本次郎兵衛のもらひ庭へ植申候

「」蔵嶋崎行文三米半表持嶋崎へ池堀旁遣候

「」池ほりハ延引之様子申七ツ前ニ帰宅

「」針原八杉の火はち・手水鉢返却為礼酒式升酒の魚四半身斗到来

府中御講不参嘉兵衛へ頼出銀致ス

六日 小早稻打盤ニ而打朝の晩方相仕廻 半日斗およき手伝

但式百七十分ノ立毛式百六束半

人足自分・喜兵衛・おすて・きわ・ミの

七日 新十郎京の帰国為土産やき物柚一ツ・煎餅五枚・二文蠟燭三本被持遣し、

中ニ金米糖少し入

御引十壺文とらせ

跡の新十郎未進算用ニ来り致勘定、其時酒被吞帰ス

十日 久兵衛屋敷年貢未年分庄屋平兵衛へ頼候処久兵衛与平兵衛引合致候

「」年貢ハ平兵衛の払候様平兵衛請合申候

干上ケ

干上ケ

干上ケ

十二日 「」の豆打大豆壺表・青豆七升五合・黒豆七升五合・小豆式斗八升京

「」栄助・すて・きわ・ミの、男女四人ニ而喜兵衛は不快ニ而不居

「」の魚老本代拾八匁五分高屋ニ而求メ使小右衛門小右衛門へ足代壺匁渡候
夜嘉兵衛よび

十九日 針原酒屋へ昼後菊見ニ行夕方帰宅、ミヤけ万寿札式匁持参

廿日 出福米善行、酒札壺升持参、大黒屋へ行法状二冊借用

山権宅江行手本取来ル米善ニ泊り

廿一日 昼前帰村

廿三日 客□□八兵衛・六右衛門地走り喜兵衛わら百五十束但門左衛門買

廿四日 池□石痛ミつくろひ普請八兵衛・六右衛門兩人ニ而

(二十)

廿七日 高巢村甚左衛門ニかりの□□壺表残り候分相渡し候

遣し置候書付此方へ取申候

廿八日 千歩寺村順教寺御堂再建新始祝儀として

赤飯一重到来致、候使江十壺文御ひき遣し申候

廿九日 まいも子老俵代銀拾三匁八分三三出村之者ニ払申候

「」中角惣もらひ四五人斗来り、わら五束代五分

「」ばんもミ壺升相渡ス

「」村村上江五月ニ行泊り之札状并煎茶茶わん五ツ添

「」出府ニ付府中種屋迄頼遣し村上へ達し呉候様

申遣し申候

二日 佐野村もち屋子息来り府中手形替表二三匁

上打遣し四拾表替事約定致ス、但善吉・作太夫

同道ニ而来ル

三日 はり原村酒屋の借用申灯燈権助を頼返濟

晩稲こき仕廻、もミたて初風呂へ納メ夫のそは打喜兵衛・きわ・ミの三人

四日

三右衛門江豆腐式丁・高江酒札壺升被持遣ス、使きわ

昼後太郎丸村新十郎方へ行銀子壺匁返濟、新十郎出福

「」ニ付家内おゆうへ相渡スミヤけ式匁のさと箱壺ツ持参

「」後佐野村もち屋へ手形引合ニ行夕方帰村、但もちやニ而

「」造作ニ成

六日 小かも壺羽三右衛門へ遣ス、使母人

はりばら村下役嘉右衛門わら集めニ付代銀壺分六里二束代として差出

佐の村平右衛門と府中手形ニ米四十表小前の河出し渡し候

手形は善吉受合

安沢与三兵衛へ払申候米三十表河出し相渡候

十八日 喜兵衛福井江買物旁嶋崎へ行銀札三百匁多造

(二十一)

扶持米方へ被持遣ス、嶋崎江そば粉式升・牛房二把

嶋崎へ遣ヒ物

廿四日 朝嘉兵衛方報恩講上分皆よばれ自分不参送り膳来ル

廿五日 森田三右衛門へ豆の手紙紙くずかひに事づけ遣ス

針原村吉村の借用申候灯燈老張権助へ頼返済

十五日

糸崎助左衛門の妹十七回志としてもち老かさね

粒そば五升斗り・柑子老袋・中鯛老枚被持遣申候

此方の大たば牛房三ば・とのいも大十外二子に添銀五匁

法事香貢遣し申候

森田御院主秋廻り泊りと兵衛宿同日夜与兵衛報恩講

老人よばれ自分行与兵衛御遠忌為志白米老升

もらひ申候、御院主迎えなし送り斗

廿一日

朝与兵衛一周忌志老人よばれ母参り同日森田御院主

報恩講勤行ニ来り御院主江布施式匁もち大三ツ

同 小二ツ

銀老匁役僧江当年くり奉加秋初穂旁

銀百匁差上申候約定

大根引勘介・喜兵衛・きわ・ミのべ四人

(二十一)

廿二日

朝与助報恩講母老人参り、大根洗昼前自分手伝ひ二而

洗、昼後半人おすて・きわ・ミの、喜兵衛は不快二而不来

廿三日

昼報恩講相伴人

老人九兵衛

老人与兵衛

御勤は廿一日御院主ニもらひ申候

不快不参、送り膳

老人与助

老人善六

老人新助

老人藤左衛門

不参、送り膳

老人久左衛門

老人おり

五人嘉兵衛上分斗

式人重助并子供

但喜兵衛不快二付送り膳

内嘉平兵衛不参、送り膳

外二送り膳

「」伊右衛門

老人勘介

老人善六ばゝ

べ十八人

外送り膳勘左衛門へ

内三人送り膳

此米京老斗式升

朱拾匁かけ 一丁五分 大こく屋

沈香半両 式匁五分 同断

油上ケ七ツ 十四匁ツ、福井二而

たくわん大根大上 式百五十本 干大根八十四本

内ニ味噌積(漬) このもの有

廿八日 朝御講与兵衛方自分参り

廿九日 出府、晚浅水大野屋ニ泊り

晦日 朝府中へ出御講銀御役所ニ而取立、夫の寒氣見廻廻勤

□朝府中出立、嶋崎へ泊り

二日 昼時帰村

六日 昼かりぎておゆう・おかな并子供式人ノ四人よひ嘉兵衛へ送り膳

七日 村森庄屋平兵衛方ニ而

八日 昼後下女ミの山室へ帰り手ぬくひ壺すじとらせる

此者給銀六拾匁也

森田正善寺様同断よせ米壺升八合有之、其上へ

九日 朝才兵衛へ吉崎秋初穂米式升三合頼吉崎へ遣申候 理右衛門五合上ケ

ノ式升三合ト成申候

(二十三)

高拾石ニ

銀 拾九匁九分 高十石

同 七匁五分 家

此米ノ京式斗式升三合四匁才 但高百五十石并上家懸共

米壺升三合八匁五才 高

同壺升五合六匁六才 家

未暮森かゝり銀 極月八日朝 庄屋平兵衛の被指遣候

(二十四)

未年「」秋初穂米

十日 朝米京式斗八升五合・大豆壺升九合利太夫を以森田寺へ送り

但外ニ源左衛門分ハ御院主引合し書付とハ間違候ニ付取立不申此内へは不入

同日 米壺表理右衛門分、但秋初穂・奉加共兼而使喜兵衛を以送り

右兩人同道ニ而森田行

十二日 晩方太郎丸おゆう・きた兩人来り泊り

十三日 右兩人逗留

十四日 昼後おゆう・きた太郎丸の迎来り帰り

同日夜伝太夫方江そは切ニよばれ

十五日 「」きわ帰り銀式匁とらせる、郡の者下女より喜助送り

「」いり自分足痛山室栄助よび見てもらひ昼

そば切ニ而よび

十七日 板垣村猪太夫見へ泊り、土産万寿式匁、さと箱式匁子供江

志比口浄善寺御本山奉加之事ニ来り

十八日 昼後板垣帰り

十九日 さの村平右衛門の府中手形四十表入、但極月十日切之所

致延引上打銀四拾匁使□十蔵ト申者へ相渡ス

但十五六日比三右衛門府中行候節相調候所手形「」拾五匁位ト申候

廿「」福井嶋崎へ多造迎ニ喜兵衛行晩方多造喜兵衛同道帰村

嶋崎へ銀三拾匁歳暮、五匁家内江礼、三匁法印江春豆壺升

黒豆壺升添

嶋崎の黒さと半斤斗到来

廿三日 「」四斗壹升内五升先達而醬油之礼、夜清兵衛よばれ候所足痛ニ付断り

内壹斗壹升五匁米ニ而渡し
そは切一重もらひ候

引テ式斗九升五合壹匁七分ツ、ベ此代五拾匁壹分五り渡し、石塚村又平
府中手形八表和助へ御仕切候節弘具候様頼ミ相渡ス

廿四日 善吉方作太夫来り、昨日和助へ渡し候手形八表善吉方へ譲り呉候様

申ニ付府中御仕切之筋之相場ニ而可相渡旨申聞右手形八表和助

善吉受取候旨申之中勘ニ而銀六百匁善吉入

昼時太郎丸せき初而来り、給銀六拾匁相渡ス

廿五日 伝太夫・登美蔵江黒さと半斤芭蕉の礼ニ遣す

□「」代壹匁相渡ス

(二十五)

廿六日 郡おより自分〇ひま取り朝帰り、もミ式升とらせる

廿八日 御所垣内村佐五右衛門娘おはつ下女初而来ル、給銀百匁かり度ト

申候得共七拾匁渡し置申候

但壹表ニ付八拾四匁六分ツ、

同日もちつき、手形代六百匁之残り七拾七匁六分善吉〇入り

廿九日 福井江多造買物ニ行

大年夜酒札式升歳暮嘉兵衛へ遣候、使多造

当年一年森田寺番相勤申候

未年畑作物覚

一わた 田嶋二枚百分内東ノ方五十分 一そは 田嶋橋左隣五十分

一同 柿木畑東ノ方内五十分斗 但早小豆蒔

一同 藤林之南ノ方ニ而五十分斗

未「」四日浜納豆仕込 より豆三升 白麦式升 糶三升但甘酒ニ致ス

塩壹升五合外ニしそのミ四升斗

申正月四日御上御礼朔日配符着

おはぶ